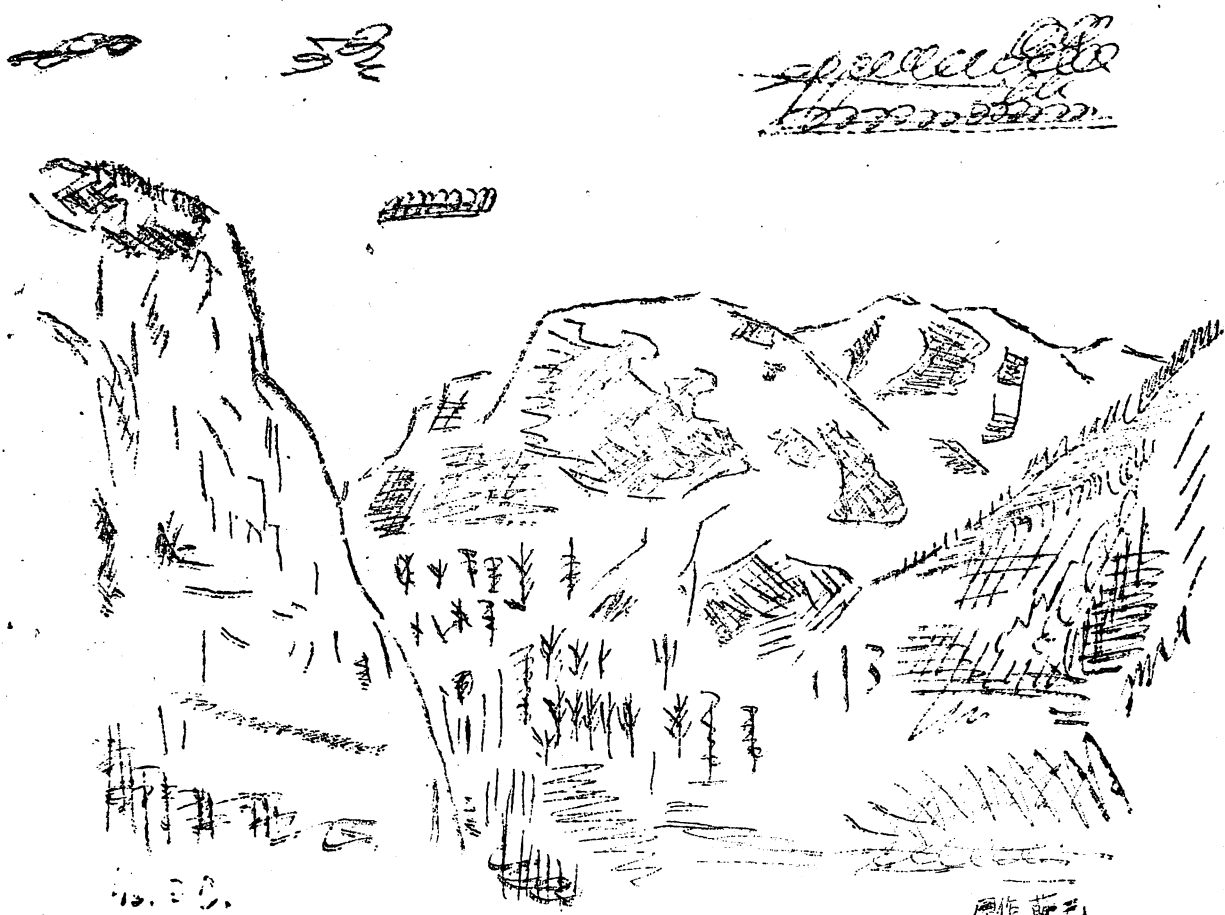


549 新人合宿報告書

— 信州學山岳會 —



1933.3.3.

原作 龍彦

新人合宿を終えて

新人合宿を終えて 早10日あまりが過ぎようとしている。まだ全体での反省会をやらせておくうちに、こゝで合宿についてどうこうと書くのは、全く個人的な意見の領域を出ないのかもしれないが、下山後の簡単な反省会のこともふまえて、少し書いてみたい。——全体を通じて特に盛り上がりやりの少ない合宿であることは、B.C.を建設後の行動内容などいろいろを手段で見つけられる、このことは、だれでも感じていると思う。そしてそれは、下山後の感想の中にも新人を向かず、2,3年生の間にも合宿が比較的集々であったという意見がまま聞かれたということにも感じられる。この直接的な原因は、雪上訓練の不足、雨による沈没、あるいは全く別の見方をすれば、部員の動かし方の悪さにも求められるかもしれない。

今回の合宿では特にこの3つ目のことが一番問題となるのではないだろうか。言いかえれば上級生各人における「リーダーシップ」というものが十分に欠けていたように思う。そしてさらに付け加えれば、上級生各人が新人を指導する時の態様の不確実さがある。例は、注意一つするにも全員に伝わらないうちに、ウラムヤのままですませる、あるいは叱りつけるなどからくる悪い意味での余りあいの態度を素直に表わす等々。二人を筆を書かせることと計画書の巻頭言で書いたことが実際は全く感じられず（しょうがない）。いわゆる言葉は何の為に書いたのかと……。そのことは後でまたゆくりと考えるとして、とにかく今合宿で不足な点は、今後冬山迄に村会がある度においはい、その村会を作ることにあって、十分に補っていかねければならないことは言うまでもない。SAC各部員の今後の積極的な山登りを望むたい。ただ他の者が登るから自分も登ろうというような自発的な態度ではなく。現在、SACあるいは各部としてのはっきりとした具体的な目標は、何も無い状態である。しかしその目標を掲おべく何らかの自分存りの努力を払うことだけは、怠らないうちにしたい。このことは、新人諸君はもろろんのこと、特にこれから実際に山岳部を動かして行こうとする、2,3年生に強く要望したいのである。

服部 幸雄

I. 期間 6月2日～9日

II. 参加メンバー

C.L. 服部幸雄(A4) S.L. 西川義満(T4) 渡部光則(A5)

6年部員 三坂健次(A) 秋田

5年部員 加賀瀬豊彦(T) 中田茂(L)

3年部員 尾崎一紀(T) 福島秀(A) 古川道裕(T) 広山和臣(F)

牧瀬敏裕(A) 吉田秀樹(L)

2年目 宅和正彦(T) 豊田信行(A) 須貝与志明(A) 古橋孝夫(A)

川瀬亨(T) 古塚直行(F)

新人 梅野イ正(L) 岡本真一(A) 佐竹義郎(S) 左山幹雄(S)

高橋英人(A) 土田章(F) 藤元治明(M) 二俣勇司(L)

村田卓穂(A) 三樹敏(T) 師田信人(M) 山本章(E)

横山嗣己(A) 小口徹(E) 福井修(T) 木塚加津彦(F)

井上雅子(A)

O.B. 井関育郎 永根田一郎

L人交 S理 E教育 A農 F経維 T工

Ⅱ 行動記録

6月2日 晴

松本キャンパス合宿所の一夜は、不安と心配と夜の明けを繰り返してほしいと思ってる内に、早くも明け、寝ボケマナコゴロドンを飲み込め。体育館前から9ワシー、マイワロに分乗して出発。島ヶ谷出合から5パーテに分かれて、峠への長い道に足を踏み出す。

- Aパーティ L 福島 秋田 川瀬 師田 高橋 藤元
B L 古川 中田 須貝 岡本 梅野 小口 二俣
C L 吉田 三坂 古橋 井上 木塚 土田
D L 尾崎 渡部 豊田 村田 佐山 山本 横山
E L 広山 牧瀬 加藤 堀和 佐竹 福井 三樹

各パーティ供（と）時頃から出合を出発、割には調子滑り出して、抜きつ抜かれつしながらも岩魚留迄誰一人バテる事なく行く。しかし、一見平穏に見えた各パーティもこの頃から脚色があやしくなり始め、峠の登りに入ってから乱れ、D、Eパーティは、パーティを分けるなどせざるを得なかった。以下トッアのAパーティとラストのEパーティの記録。

Aパーティ 6:00 島ヶ谷出合 8:00 北沢出合 10:10 岩魚留 12:15 最後の水場 13:35 峠 14:20 峠麓 3:15 天場

岩魚留までみんな元気。そこからペースを落とし気味で行くも、他のパーティの様子がおかしくなり、峠の登りでトッアに立つ。最後の水場で一年の練習甲子園に水を入れる。峠直下で、川瀬の下半身が一部を除きケレンし、ゆってり休んで行こうとするを、すぐ下の他パーティの声に噴きし、みんなして峠へはい上がる。

Eパーティ 5:55 島ヶ谷出合 7:45 北沢出合 10:10 岩魚留 12:25 最後の水場 13:40 11パーティ2分 14:30 先行P 峠麓 15:45 全員集合 16:10 峠麓 17:50 天バ

最初から、宅和がとぼして、岩留までは、左側のトツアで行く。しかしそこから三村の調子がしだいに悪くなり、最後の氷場ではラストに寄りつつら柳川の登りでPを2分する。やっと峰に全員がそろい、下り始めるが、三村がやはり不調、また宅和が雪の上でひっくり返ったりする。天気が見えてからは、全員で助け、こをす。

☆ またこの日特記すべきこと → Bパーティに入った唯一の女性井上嬢が、回数はキロと、野郎と違って色々ある個装をかついで、バテる男隊を、尻目に立派に歩き通した。

6月3日 快晴→晴

Evening 当 3:10起床、5:00 揃い開始、6:00 出発、7:00 徳沢、7:30~8:00 奥又出合対岸、8:55 B.C.地、9:10 設営開始

昨日と同じパーティで出発、登山が花け切らず、荷物も重くなる、たまたま、その日も、明神や、前赤前とてまも立派で、うなだれた首を左に上げる、奥又出合対岸で、例によって、前赤東面の説明と、本谷への進路として後B.C.地へ設営後、2年以上は、コレニせへ、吉田川源は、沢沢へ傍察、痛のバロ中田二人は、一年と休息、掛用、9時、小根田OB入山

6月4日 晴→曇

2:00 Evening 当起床、4:15 出発、5:50 沢沢ヒュッテ、6:05~11:00 雪上訓練、11:25 ヒュッテ宿、12:30 5-6のコレ、13:30 ヒュッテ、14:45 B.C.

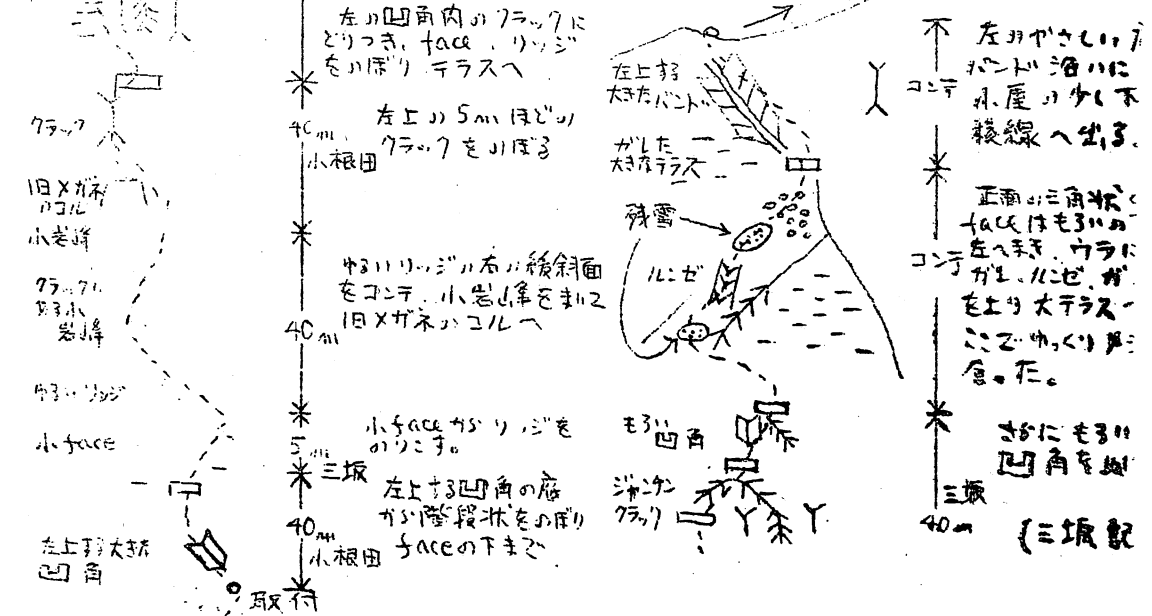
3パーティに分かれて出発、本谷橋の所で、雪の上を右岸へ渡り、岩と雪まじりの中を登る。本谷出合の下あたりから沢は全部埋まっている。というふうな所を登って、ゼイゾイ言いながらヒュッテへ。2年生は、スワカット、コンテ、1年生中心に、北居根の斜面でキックステップ、その後全員がストップ、グリセードをし、一応のナドがついたところで、4人分を、5-6のコレへ上がる。下りは、グリセード、シリセードの操縦しながら下りる。なお、加賀親、渡部は、3-4のコレ、逆行き、又自働の傍察をする。B.C.Dは、共、落石のみぞが二か所

6月4日の記録のフグミ

1パーテ 三坂、小根田 route クラック尾根

5:00 B.C. 発. 7:00~:45 北沢下① 10:30 北木小屋②

11:50 南端③ ガス 14:20 北木小屋~50. 16:40 B.C. 着



卒直存感想 — シンドかった(北木迄)

我々がらマクがない

滝谷=しては暖かった。

以上は、三坂さんの報告をそのまま脚色なしに載せたもので、ルート図はごまごま限り忠実に再現しました。ルート図というものを新人もそろそろ勉強しなはる

焼肉の萬里グループ

・ローメン、ローサイ、イノブタ料理、マトン、馬サシ、イサシ。

・はな水、カゼとアレに --- 効果満点のリア酒、リアドリンク、おみやがにどうぞ。 再見。

中華風レストラン 萬里 入舟本店。

6月5日 曇→雨ノ曇

4:15 B.C. 発 5:40 ヒュッテ下、降り出す 5:55 ヒュッテ 6:40 発
7:40 B.C.

もう降るのは必致とこのが見え見えという感じの曇を、うさんくさげに見
上げながら、行かなくてはならない。本谷出谷でMJI 鳥が帰ろう帰ろうと
ギャーギャー言うてるが、それでもやっぱり行く、ヒュッテの見える(曇から降り
始め、必死でヒュッテへ逃げ込んで、待機の後、帰ることに有り B.C.へ、
みんな朝飯を詰め込んでもう一度シュラフへ。曇から降りたりやんだりの天
気が続く、 6年目の、三つ、秋田、OB小松田下山

6月6日 曇→雨ノ曇

4:10 B.C. 発 5:50 ヒュッテ 6:00 ~ 9:10 雪上訓練 9:20 ヒュッテ発
10:20 B.C. 12:00 B.C. 発 13:10 奥又出谷のお墓 ~ 13:30. 15:00 B.C.
今朝も対岸の上は、パツとしないう天気ぞ。キックスアップ、ストップ、グリセ
ードの練習をしている。内に雪行きかあやしくなり 降りだす。今日は、1年を中
心に北はへ、23年の2パーティを 北尾根と東稜に出る予定だったが、ま
ん中止にして、B.C.へ逃げ帰る。帰ってから一時暗れ肉も出たりしてまた
1人で、墓参りをすることにし、対岸へ登って新道を行く、途中から一時雷雨が
強く降った。墓でみんなでおみきをいたたまき黙禱し、人それぞれお願ひなどを
する。帰りは、新村橋から横尾経由でB.C.へ、横尾の避難小屋で、ヤザリレ
インジャー、井筒C.B. 古塚入山。

6月7日 晴/曇

今日は、上級生のバリコエーションが4峰に3パーティ、滝谷へ3パーティ、それ
に1年中心の北木のパーティに分かれた。

・北穂高パーティ 北木沢から北木 古塚

↳服部と渡部 以下 古川 牧瀬 豊田、一年生全員 OB井関

5:30 BC発 7:30 北木沢下 10:00 北木 ~ 12:30 待村 12:30 発
14:00 ヒュッテ 15:20 B.C.

Evening 当の起きた時は、昨夜来の雨がパラツいていたが 回復のキザシが
見えたので、1時間遅れで朝食を作る。出発の頃には、晴れ直も見えてくる。
山の言はと見れば、上は雪だったようで、2500m以上は、新雪をかぶってい
る。きのうとあとといの分を取りもどす為、最初から北木を目指す。2パーティ
に分かれて 北木沢を1年生のキックステップで登る。上部は、傾斜の急な上
に、新雪がとけてきてグサグサでしんどかった。北木小屋に着いて少しすると、
東穂パーティが来る。ここで、東穂Pを三尾根、北木Pの上級生4人をドーム
へ送り出し、残りは小屋のテラスで大休止。ココのテラスにいと、今頃の季
節と、晴の天気とあって、European 存在感を受けざるを得ない。

2時間経して、滝谷へ行った内の4人が 状態が悪くて 登山を放棄して
帰ってくる。北木沢を1年生にグリセードを数えながら、少しづつ降る。途
中から口 もろろんシリード。迫力あるうー

・北木東穂パーティ 東穂から北木-奥木-最後コル

↳福島 川瀬 古橋

5:40 B.C.発 7:30 北木沢下 9:05 東穂のコル 10:20 北木小屋 11:00 南北
峰間コル発 13:00 ~ 13:30 白出のコル 14:30 吊尾根 最後コル 16:30 B.C.

北木沢下迄は北木Pと前後して行く、ゴルジエのすぐ左を巻いて上をトラ
パス気味に登り 東穂のコルへ上がる。新雪がもうグサグサ、東穂へ出ると
先行パーティがいて相前後して行く。ゴジラの背は雪が付き、少しのせいでいい。

他は、南岳側が傾斜なく、どうってことなし、北ホ小屋でドームPとリッパ
には度して、松崎岩のコレへ行くが、P₂から、偵察してみると、シメは、リッ
ガチ、ままけに滝谷側には岩にエビのシッポが張りついて、我々の3尾根は、
中止とし、白出のコレ迄の予定を吊尾根の吊修コレに延長する。洞沢のコレ迄
は、夏道が滝谷側におり、氷がついていて、風もつよくまわり、白出のコレ
の冬期小屋でのレインジャーは隣った、たらぶくつめ込んで奥ホから最終コレ
へ。グリセードで下るが、グサグサの下が堅く、所々切れていて、止まり止ま
り行く、途中からシリセードでバンバンと歩いた。

・ドーム中央縦パーティ L渡部・牧瀬 L服部 古川

10:30 北ホ小屋 11:20 ドームの頭 11:50 北ホ小屋

北ホ小屋に豊田、井岡さん、1年生を残して、オーバースポーンにジャンパーを着込んで
3尾根を登る東嶺からの3人と共に出発、滝谷側は、昨夜の雪と、岩にビッ
シリ張りついていたエビのシッポで夏白、それにヒからの吹き上げがすごい。P₂か
ら偵察して、シメはかたくて、下れそうもなく3尾根は中止、こちらドーム
の頭からのぞくことにして、行ってみるが、これも結局中止とする。夏白の滝
谷を見て南志満だった人はガッカリ、北ホ小屋へ戻り、一年と北ホ沢を指す。

・明大パーティ 北尾根最終コレー洞沢-4峰明大-3-4のコレ

L広山、須貝 宅和 5:35 BC 巻 7:45 最終コレ 9:50 4-5のコレ

11:25 取付下の赤岩 12:00~14:30 登山 15:30 3-4のコレ 15:50 BC 巻

北ホパーティといっしょに本谷出谷へ、そこからトラバースしながら高度をかき
ぎ、最終コレへ、北尾根は昨夜の雪でとても6月とは思えな。6峰の登りは
氷かつまった上に雪が付き、恐しかった。4-5のコレから洞沢を下るが、所々
切れてる上に中2m位の落石の溝ができていた、そこへ、テント位の大きさの
落石がもの凄いいきまわりで飛んで来た時は、実際シッペンした。シメを少し登
り直しゃって取付くが、雪がとけ流れていて落ちつけない。北ホは、12:00
目だけ正規のルートを登り、あとは左上しし岩洞宛右の中大がリーへ抜ける。

最低コル(尾根)か、できれば白笹のコル迄の予定だったが、時間が遅くなる

→たので3・4のコルから下山。

○松高パーティ 松高尾根-4峰松高.-3・4コル

L加賀瀬 尾崎 5:35 BC 6:20 新村橋 8:20 松高尾根上部

10:50 登ハン開始 12:50 終了 13:40 4峰 14:30 洞沢ヒュッテ 15:10 BC

4・5のコルから下って行こうか、松高尾根から登ろうか、と迷ったが、下からの方が楽だろうというので、行くが、それでも、ゼイゼイハアヒイ言って、やっと取付迄。下部1ピッチは、埋まっていたりして適当な所から取付く。松高ハンテは、水が流れて、シャワークライム並、その上の凹角もぬけていてイヤな感じ。テラスから上げ、カンバの木をかかえて行く。4峰で、北条新村の2人と合流して、3・4のコルから滑る。

○北条新村パーティ 松高レンゼ-4峰北条新村

L西川 吉田 5:30 BC発、6:45 奥又出合、8:55 取付、9:05 開始。

12:35 終了 1:10 4峰、14:00 3・4のコル 2:25 ヒュッテ 15:30 BC

松高パーティと協会の結果、下から行くことにし、早く登りたいので、ハイバースで行く。松高レンゼは雪がつかって、こちらの方が早そうなのでルゼに入。一番大きな滝はでている。広い本谷をキックステップでトラバース、BC沢も急いで渡って取付く。ハイ松テラス迄2ピッチどらってにとり、ハンテをアブミを使えばなんともあり。そこからのトラバースは高度感が満点で、身持イカッタ。トラバースから直上する所が、もろく、ホールドも少ないのでイヤらしいだけ。4峰では、やっぱりここが一番面白い。4峰のピークで松高の連と合流して、ハイバースで帰る。

5月20日

今日は、合宿を押しつくり 横尾尾根、からの最後の行動日となり、7日間の
1日、横尾尾根、槍沢へ各1パーティが出た。

○明大パーティ 北尾根最低コル - D沢 - 4峰明大 - 3-4のコル

上尾崎、古橋、川瀬 豊田 4:00 BC、発 5:20 最低コルすぐ下 6:35 初峰
9:30 5-6のコル 10:00 4-5のコル 10:45 取付 11:15 南始 12:10 終了
14:00 4峰 15:10 BC

北尾根は昨日のパーティは苦勞したと聞いたが、今日は、6峰、5峰をスナ
リ越す。また昨日のパーティは気が付かなかったのか、8峰でデボをひらって、
干菓物、カラミ等をバクつく。D沢は、グリセードで何なく下降、4峰正面の
マカラが、登って来てコルを交す。明大は、おもしろルートを取り方存りで
水が流れている。2パーティに分かれて登っているのだが、身内同志でかつ
マ登っていて、どういう意味があるのか等と考えさせられる。登っている途中、
Bからでもものすごい落石を直撃し、ちびみ上がる。時節柄、自然落石がま
ぐくヒンポンと起る。4峰には、正面の連中がカクカクは音をほうこきで、行
ったから4峰からのおみやげを出す。こちらもゆ。くりにした後、みんなで3-4
コルから合宿最後のグリセード=リセードで足切りをばし。

●松高パーティ 松高尾根 - 4峰松高

L服部・牧瀬 L渡部・古川 4:05 BC 6:00 尾根取付

9:05 インセル下 9:30 南始 12:00 後党パーティ終了 12:20 4峰

14:40 3-4コル 15:50 BC

梓川から4峰を見ていると、11ヤリあったが、ハイヤーズが歩いてると、11
の向にかなり遠かった所に這上がっていた。インセルの下で落石を避けて、登
ハン準備 渡部・古川組 先に取付く、しかし取付を右へ行まずぎていて、変
動を登らされる。後は、ルート通り。後党した牧瀬は、モヨオシテ居たので
松高グラスで犬キジを打つ。そいごもって、そのモノを右下へ蹴落す。落キジ

北条テラスからの凹角が少しニカかったけど、未と何とを奪い終了、北条新村の2人を待って、11:15に明大がくるまで昼寝。後は明大と

○北条新村パーティ L 柏資瀬・福島

4:20 B.C. 発 6:45 松高尾根上部 8:15 取付 8:35 開始 9:00~11:00 松テラス 12:00 終了 12:40~14:40 4山峰 15:10 B.C.

やはり4山峰の高さにウンガリし存から登る、B.C. 沢はバテた体にもう足速にトラバース、イニゼルの下でかんがりしている松高Pを横目に踏まえてハイクでハイ松テラスへ、こゝでガックを降りし、ガイルを解いてすわみゆっくり一本、天気は上々で、夏の雲が出て、少し暑い。1時間も休んやからリングに取付き、息を切らす。トラバースで高度感にとっても感激だらうハイク上へ延ばして終了点へ、そこからゼイゼイ言って4山峰へ、後松高Pと11:15。

○横尾尾根パーティ 横尾本谷-横尾尾根-南岳-槍-小槍右ルート-L 云山、須貝、古塚 4:10 B.C. 発 7:10 尾根上 8:30~9:00 南岳 10:35 槍肩 10:50~13:00 小槍へ 13:20 看尾 16:20 B.C.

賢明なる読者諸君は、上カコースタイムの所が既に気付かれたと思うが、これは横尾尾根を登った自分だけが存い、はずみとは恐しいもので、我々は年をため、右僕と左僕に分ける南岳の東南尾根をみせし登って南岳へ行く。たのびる、それだけに^{人気}が存く、我々だけの山を結果的に満喫した。種類は岩はじりかハイ松で、時折岩峰らしきものもあつた。南岳の小ヤシは、例にまじりシヤ。肩へ行くと、槍沢カパーティが着リつた。云山・古塚で小槍右ルートを登る。とつても寒がた、先へ帰る。カパーティ、カトリースをシヤせりて行く。傾斜が存く存つてからは、今二タラB.C.へ。

槍沢パーティ 槍沢 ← 槍

L-吉田 西川, 宝和, 一年生員 6B 井関

4:00 B.C. 発 5:20 一の保 10:05 ~ 15 肩 10:45 2-7 12:45 奮発
13:40 B.C.

槍沢小屋のゆし上でスパッツをつける。殺生の下の方から1年生にキックス
トップで乗待士せながら行く。下ばかり向いていたら三肩に着いた。10分もする
と橋屋屋根のパーティも来る。狼目を二ちらのパーティに入れて、いっしょにホ
夫へ上がる。≡樹は足が具合悪くアングライレンさせる。頂上へつくと、眺めが
素敵で、いままでのつかれがすっかりとれたよう。下りは、まっただまといば
カリにカッパを付けて思い切飛ばす。雪がなくなる頃からみんなで夕食の天ア
ラのタネをツミながら下る。

森にあってから河原で大きなパーティーをして、営林署のオッサンがいない
心配しながらも、酒を飲む。11時半頃迄、しか(どうも酒がゆく白く気味。
一年生も早く楽しい酒が飲めるようになりましよう。

6月9日 晴

5:30 Essen 起 6:50 槍沢開始 8:20 B.C. 発 9:25 徳沢
10:25 ~ 11:00 明神 11:45 バスターミナル

幸い下山の今日は、晴天で明けてくれた。雨の中の槍沢程いやなものはない
から。槍沢したう一目散に上高地ゆがけて、とぼす。けど、時間が早すぎるの
で、明神でゆっくりして、ある者は明神池までゆきに行く。上高地は、日曜日
の島もあって、チャンネルがきつい衣服を着て(服が重い)まはゆいばかり。
ターミナルでみんな缶ビール飲んで、マイクロ、タワシーで松本部屋へ帰った。

追記。入山したはずの5年目の中田さんの名前が、記録の中に、一度も出て
きませんでしたが。中田さんは、入山前からの痔が、徳本越えの際、痔
の高度順応に失敗し、以来、6/6に湖邊行った他は、B.C.の留守番で、
3天

てしまいました。そして、BC、カ素晴らしい環境の中で、もう半分、整える
ることができそうです。 サアスガ哲人、

ニニニからは、あなた自身で作るページ ==

各係反省

工. 医療係

去年の一年間の業務を振り返り、その間に発生した事故や患者の苦痛を減らすための反省を述べ、今後の改善策を述べたい。

1. 事故発生時の対応

昨年、山形県内の山間部において、登山客の滑落事故が多発した。これは、登山客の安全意識の不足と、登山道の整備不足によるものと考えられる。

2. 患者の苦痛軽減

昨年、山形県内の山間部において、登山客の滑落事故が多発した。これは、登山客の安全意識の不足と、登山道の整備不足によるものと考えられる。

3. 医療体制の強化

昨年、山形県内の山間部において、登山客の滑落事故が多発した。これは、登山客の安全意識の不足と、登山道の整備不足によるものと考えられる。

4. 登山道の整備

昨年、山形県内の山間部において、登山客の滑落事故が多発した。これは、登山客の安全意識の不足と、登山道の整備不足によるものと考えられる。

5. 登山客の安全意識の向上

昨年、山形県内の山間部において、登山客の滑落事故が多発した。これは、登山客の安全意識の不足と、登山道の整備不足によるものと考えられる。

以上

II. Essen 係

計画の段階で、昨年と全く同じ計画に奈、たのは全く係のズク奈しのせいになります。しかし、40人という数も頭に入るとどうしてもやむを得ない面もあるでしょう。

合宿中山題と奈、た米の量でもありますが、今回一人当り200g(1.4合)で計算したのですが、もっと食べたというのはやはり喰い過ぎでしょう。今後、新しく諸氏の独創的な計画を期待しております。

III. 記録係

係の者の先天的ズク無し責任感無しの為、出足から口ク奈ニとに奈らず、おんなオゾマツク計画書も作っこしき、おまけに涼しい顔をしてハルハルが、南いた口が肉まら奈、等と自シヨウゴキる位の人肉どしか奈か、たんだかりと言ってしまえばそれまで何事も片ズまらにも思えるが、クラブという所、合宿という場所、とれまで一といえるハズも奈。

以下、新人へ主に、

- 1,2年目係、口ク奈記録をつけていない。
- 行動内容・感想なども、と厚しかった。
- 2年目は特に時間的なモノだけに終、こなるものがあった。
- 記録者の名前、リーダーのメンバーがよく扱っていた。

Ⅳ 装備係

装備計画(準備・解散)は大きな支障もなく終、た
しいと感じた。各部とも分担された装備は確
定に持、こきこもしい。又入山中も貸し出し返却
をParty毎にまとめ行った。たことにたりのムーズ
に行、たし下山後の紛失物も無か(油を除く)、た。

以下細かな点について述べてみると、

1. 登攀具の不足

ガイロを多めにしたがびす、数は5 Party(2人)
のままであつて若干の不都合を生じた。
アブシムも4台あつてもたつた。

2. テントの不整備

本部との誤解により予定していたテント(3張)
が借りられず、よせまつて作、た為設定の時
戸惑ひさせた。た。

3. ラジウスが1台あかしくなつた。充分点検した
つもりでも台自体の老朽化からか。

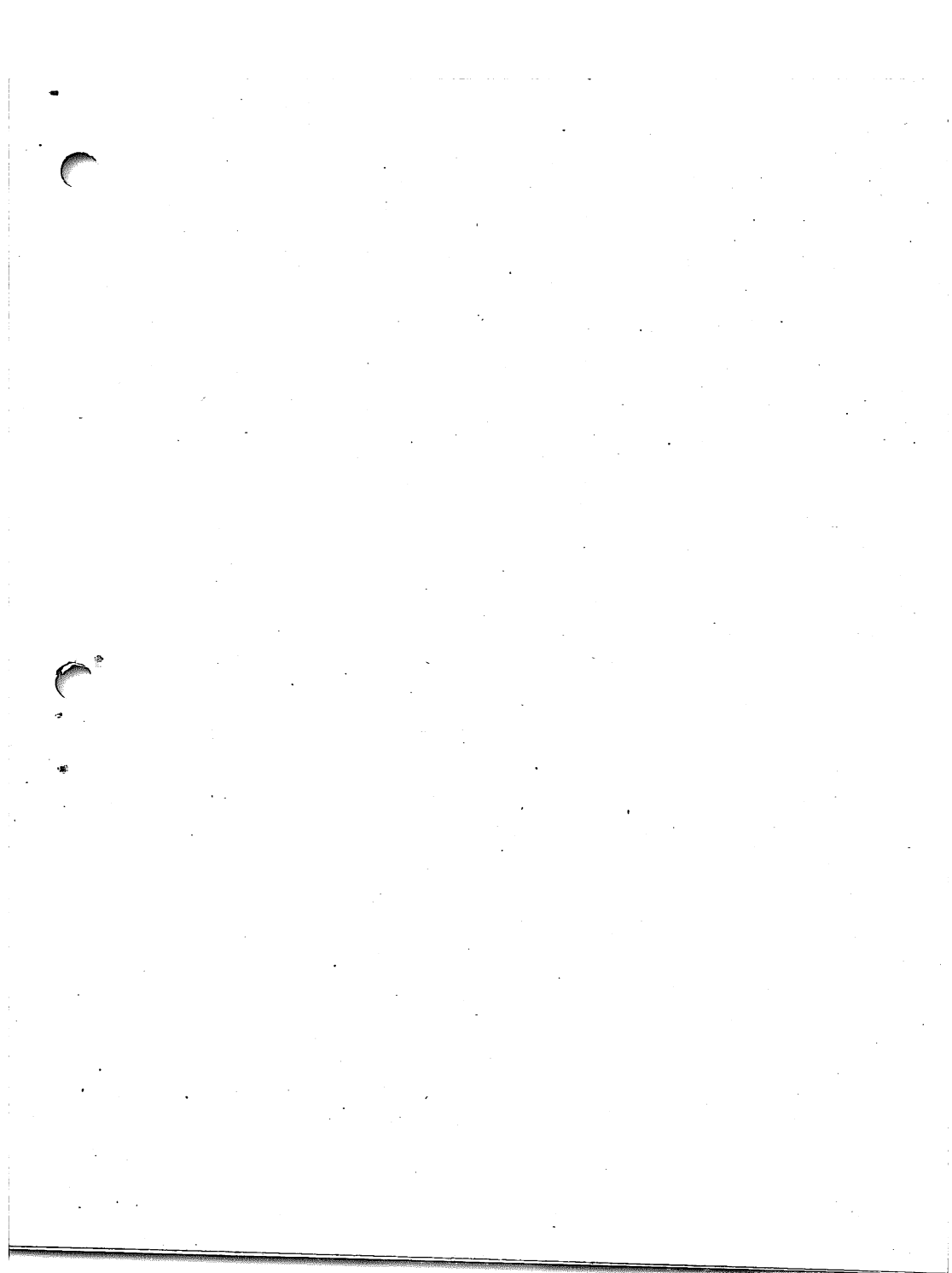
4. 入山中は2年生に大部分まかせたが、各Pに2
年生が1人ゝ為貸し出しがスムーズに行く原因と
なつた。これからもうしたい。

5. これからもXはマキを利用したい。

6. 装備係は松本に3年が1人ゝ場合松本部員が、
たほろがたい。

7. 装備係が全員あつた、反省する機会がなかつた。
た。

その他合宿の内容(登攀ルート、人員数、形式等)
は早目に決めるもよいといふ要望を出して
おきます。



S.49.6.24 発行

信州大学山岳会 新入会宿報告

無料 送料定額

発行兼編集 農学部中原寮情報デスク118

印刷所 中原マンション